



研修だより



No. 2

2回目の事前研修開催！

台風直後の9月18日（月）、アセアン加盟国中学生招へい交流事業の国際交流実行委員（以下、「実行委員」とします。）が、再び国立吉備青少年自然の家（以下、「国少」とします。）に、事前研修（第2回）のために集まりました。今回は12名（残念ながら1名欠席。）の参加となりました。

2回目ということもあり、国少や実行委員のメンバーにも慣れ、今回も様々なテーマについて考えを出し合うことができました。

アイスブレイク

アイスブレイクでは、運動会のことをテーマに、「運動会で輝いていた人」または「私だけが知っている決定的瞬間」について一人ひとりが話していきましました。実行委員の言葉から運動会を見ていないスタッフでも白熱した様子が目に浮かんできました。共感できることや初めて知ることにより話が弾み、緊張をほぐしていきましました。

また、ブルネイとミャンマーから来る中学生の顔写真が配られ、名前や趣味、参加理由も紹介され、交流もいよいよといった感じになってきました。



テーマ①「交流プログラムの企画と運営について」

テーマ①では、前回に続き、11月23日（木・祝）にブルネイ・ミャンマーの中学生と一緒に「吉備中央町の散策」について考えましました。

前回考えた、案内したい場所を、「道の駅かもがわ円城」「お祭り会館（総社宮）」

「重森美鈴記念館（吉川公民館）」「道の駅かよう」の4つにしぼり、誰がどこの案内を担当するのかについて決めました。

また、その後で交流プログラムのテーマをみんなで考えました。みんなの考えを組み合わせ、「おもてなし～互いに教え、互いに学ぶ～」に決まりました。

さらに、施設に確認しておきたいことについても、「獅子舞はできるのか。」とか、「祭りの笛を吹くのはいいのか。」などの活発な意見が出てきました。

テーマ②「ディスカッションに向けた地域の課題の発見と課題解決」について



テーマ②では、第1回の事前研修で決めたディスカッションのテーマ「地域の伝統文化」について自分で考えてきた事前学習を基に、地域の課題と解決方法について考えました。

地域の課題としては、「祭りにごみのポイ捨てが多い。」といった意見から始まり、「少子高齢化に伴う祭りの参加者の減少が問題だ。」「祭りの歴史、しきたりを知らない若者が増えている。」「祭りの持つ意味合いが変わってきている。」などが挙げられました。その後は、たくさん挙げられた課題を分類し、解決方法を考え、意見を交わしました。これらの考えを本番のディスカッションで3ヶ国が交流し、より良い方法を見出していきます。

次回に向けて

次回は10月9日（月・祝）に行います。内容は、ウェルカムパーティーとフェアウェルパーティーについて考える研修を行います。

最後に

実行委員のみなさん、お疲れ様でした。今回は、進行と記録を皆さんの中から出てもらって行いました。いろいろな考えが引き出され、とてもいい内容になったと思います。今後も、本番に向けてより良い事業になるようにみんなで意見や考えを出し合い、しっかりと準備していきましょう！

ホストファミリーについてもご検討をよろしくお願いしますね。（CARP）